

あした 未来へつなぐ

【安全に向けた取り組み】

ひとりでも多くの人の役に立つために、この北海道で地域と人のために私たちができること。JR北海道グループは、いま真摯に向き合います。「未来(あした)へつなぐ」ために。

文=本間 吾里砂



平成14年11月に「北海道初の屋上自動車教習所」としてリニューアルオープンした桑園自動車学校。約80名の指導員が優良運転者を育成。

「交通事故防止」への取り組みが評価され 北海道警察ほか、三者連名により表彰 桑園自動車学校／札新開発(株)

札

新開発が運営する桑園自動車学校は、地域の交通安全センターの役割を担う北海道公安委員会指定校として、「生涯無

事故ドライバーの育成」を使命につひとつ着実に実績を積み重ねています。過去には数回にわたり北海道警察か

ら感謝状が授与されたほか、全日本指定自動車教習所協会連合会からも表彰を受けています。

平成二十四年十二月には、交通事故防止について適切な安全運転管理対策を積極的に推進し、交通事故防止に顕著な成果を収めた

として、北海道警察、北海道交通安全協会、北海道安全運転管理者協会から三者連名で表彰されました。このとき同時に「平成二十四年度交通安全優良事業所」にも認定されています。

これは、同自動車学校が十八年連続で道内最多の入校者を誇りながら、数々の取り組みを通して優良運転者の



桑園地区の児童を対象とした交通安全教室。

育成に貢献している点が評価された結果です。たとえば、卒業生に対しては、ハガキやメールを活用して安全運転を呼びかけたり、冬道安全運転講習や、自動二輪愛好の卒業生により結成されたクラブでツーリングを行うなど、さまざまな活動を展開しています。また、地域住民や児童を対象に「交通安全教室」や「自転車研修会」などを実施。さらには、七十歳以上を対象とした「高齢者講習」、仕事で車を運転する社員が対象の「企業運転者講習」などでも実績を挙げています。一方、教

習指導員に対しては、年一回の法定講習をベースに各種研修を実施し、二人ひとりの資質向上を図っています。平成二十年からは、高度な安全運転技能・知識の習得を目的とした安全運転中央研究所(茨城県)の教官に北海道から初めて同校の指導員を派遣しております。ハード面では、教習車両にいち早くハイブリッド車を導入、次いで電気自動車を使用するなど、環境に配慮しているほか、コース内障害物に対する緩衝材の設置や、最新式シミュレータの導入など、着実に改善を進めています。

JR北海道グループの一員ということもあり、同自動車学校では、JR北海道の安全に対する考え方を根幹に据え、運転技術だけでなく、安全への意識を育む環境を整備してきました。それが、今回の表彰につながった最大の理由ともいえるでしょう。